

学校教育目標	◎よく考え <平成31年度～令和3年度重点目標> ○やさしく ○つよく 手をつなぐ 拝島の子供	ビジョン	【目指す学校像】	「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…学校の持つ公共性の希求 教育課程の適正な実施と執行
			【目指す児童像】	「あい」のある子供…○学び合う子供 ○思い合う子供 ○鍛え合う子供 ○繋ぎ合う子供
			【目指す教師像】	「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力) & innovation(革新性) & idenntity(共同体意識) のある教職員

領域	中期経営目標 (V:ビジョン)	短期経営目標 (M:ミッション)	具体的方策 (赤字:数値目標等)	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	《V1》 学校体として、組織的・計画的に、確かな学力を育みます	M1:学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタイルの徹底 ②朝学習の充実 (週4回) ③ICT機器の活用 (日1回) ④補習活動の充実 (土曜+平日)	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した		4 学力調査平均正答率が、全国比3P↑						
			3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		3 学力調査平均正答率が、全国比2P↑							
			2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		2 学力調査平均正答率が、全国比1P↑							
		M2:生きる力に係る児童の資質・能力の育成について指導法の研究を進めます。	①校内研究会 (年間7回) ②授業実践研究(全員授業) ③研究の発表・報告(紙上)	4 教職員全員が、主題にかかわる授業研究を行った		4 学力調査平均正答率が、全国比3P↑						
			3 9割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った		3 学力調査平均正答率が、全国比2P↑							
			2 8割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った		2 学力調査平均正答率が、全国比1P↑							
		M3:ICT機器やデジタル教科書、思考ツールを活用した学習を進めます。	①週の指導計画確認(37回) ②授業観察・指導(年2回) ③OJT研修(年間8回)	4 全ての教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った。		4 学力調査平均正答率が、全国比3P↑						
			3 9割の教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った		3 学力調査平均正答率が、全国比2P↑							
			2 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った		2 学力調査平均正答率が、全国比1P↑							
豊かな心	《V2》 学校体として、組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	M4:いじめや不登校の未然防止の指導と即時対応の体制を整えその徹底を図ります。	①「生活のきまり」の徹底(言葉遣い・時間厳守) ②いじめ対策PTの活用 ③いじめガイドラインの見直し	4 全ての教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		4 いじめ・不登校の出現回数3割減少						
			3 9割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		3 いじめ・不登校の出現回数2割減少							
			2 8割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		2 いじめ・不登校の出現回数1割減少							
		M5:道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみ、地域ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開週間(年1回・平日公開) ②評価に関わるOJT研修(1回) ③保護者への啓発(年3回)	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した		4 いじめ・不登校の出現回数3割減少						
			3 9割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した		3 いじめ・不登校の出現回数2割減少							
			2 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した		2 いじめ・不登校の出現回数1割減少							
		M6:全学年で飼育・栽培活動に取り組み、生命尊重や思いやりに関わる実践を進めます。	①「心に輝く花いっぱい活動」の試行(年2回・委員会) ②稲作体験開始(5年生) ③保護者による環境整備(PTA活動として)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った		4 児童・保護者の学校評価関連項目の指数の3P改善						
			3 9割の教職員が、保護者への啓発活動を行った		3 児童・保護者の学校評価関連項目の指数の2P改善							
			2 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った		2 児童・保護者の学校評価の関連項目の1P改善							
健やかな体	《V3》 学校体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	M7:運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入 b(毎時) ③運動週間(年3回)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った		4 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る						
			3 体育科や運動の9割の授業で補強運動を行った		3 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る							
			2 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った		2 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る							
		M8:保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(学校・学年・保健通信(毎月)) ③学校保健委員会(年1回)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った		4 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る						
			3 9割の教職員が、保健指導を計画的に行った		3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る							
			2 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った		2 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る							
		M9:安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂 ②避難訓練の改善(11回) ③安全指導の充実(11回)	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った		4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P						
			3 9割の教職員が、安全指導を計画的に行った		3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P							
			2 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った		2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P							
輝く未来	《V4》 学校体として、組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	M10:話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(4・5月) ②学級会活動(年9回以上) ③SDGsに係る探究活動のカリキュラム化(総合的な学習の時間等)	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った		4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する						
			3 9割の教職員が、学級会活動を10回以上行った		3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する							
			2 8割の教職員が、学級会活動を10回以上行った		2 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下							
		M11:ハイパーQUやプログラムアドベンチャー(PA)、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用(2回) ②PAの活用の活用(年3回以上) ③SCの全員面談(高学年)	4 全ての学級担任が、PAを7回以上行った		4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P						
			3 9割の学級担任が、PAを7回以上行った		3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P							
			2 8割の学級担任が、PAを7回以上行った		2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P							
		M12:自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回) ③キャリア教育の系統化(小中一貫9年間プラン化)	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した		4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P						
			3 9割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した		3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P							
			2 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した		2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P							
		1 7割の教職員が、外部教育力3回以上活用した		1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし								